在宅医療に関するアンケート調査へのご協力について

岡山市保健福祉局 新病院·保健福祉政策推進課 岡山市保健福祉局 保健所保健課

日ごろより岡山市の保健・医療・福祉行政にご理解・ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

皆様すでにご存知のとおり、わが国では急速に高齢化が進んでおり、岡山市においても高齢化率は、2010年(平成 22 年)現在、21.3%と超高齢社会に突入しており、2025年(平成 37 年)には推計で 27.3%となる見込みです。

こうした中、岡山市では、在宅医療の推進を、今後の医療・高齢者施策にとって特に重要な課題と位置づけ、高齢者をはじめとする市民が、生活の質を保ちながら、住みなれた地域でいきいきと自分らしく暮らすための、在宅医療支援体制の整備を進めていくこととしています。

そこで、岡山市内の診療所における在宅医療の提供状況、在宅医療・介護機関との連携状況をお伺いし、今後増えると予想される在宅医療の需要に対応すべく、在宅医療体制の整備やネットワークづくりの基礎資料とするため、アンケート調査を実施することといたしました。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の主旨をご理解いただき、ご協力をいただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

平成 24 年 11 月



<個人情報の取り扱いについて>

アンケートにご回答いただくにあたり、ご回答者の住所・氏名などの個人を識別できる情報(個人情報)を書く必要はございません。回答内容は統計的に処理しますので、アンケートに記載された内容がそのまま公開されることはなく、調査結果は上記目的以外に使用することはありません。

<調査票のご記入にあたって>

- 調査対象は、岡山市内の**居宅介護支援事業所管理者**と、**同事業所の常勤スタッフ1名**です。 (各事業所で、計2名の方に回答していただくことになります。)
- 回答は□を✔でチェックしてください。記入部分には記載をお願いします。
- ご記入いただいた調査票は、<u>12月14日(金)までに</u>、同封の返信用封筒に入れて郵便ポストにご投函ください。 切手は不要です。
- この調査のお問い合わせは、下記までお願いいたします。

岡山市保健福祉局 新病院·保健福祉政策推進課 (担当:和田·大谷·<u>徳田</u>) 電話 (086)803-1637 FAX (086)803-1776

在宅医療に関する調査 ~居宅介護支援事業所~

//		11. K-K-	#-	T= +u /	١
//	1111111	\mathcal{T}	P . A	情報〉	O
11	/ # # 1	+=			7

《属性等基本情報》
1. あなたの年齢をお選びください。
□① 20歳代 □② 30歳代 □③ 40歳代 □④ 50歳代 □⑤ 60歳代 □⑥ 70歳代
2. 介護支援専門員業務の経験年数をお選びください。
□① 3年以下 □② 4年から7年 □③ 8年以上
3. あなたの所持する資格をお選びください。(*複数回答可)
□① 介護福祉士 □② 看護師 □③ 保健師 □④ 薬剤師 □⑤ 社会福祉士
□⑥ 精神保健福祉士 □⑦ 栄養士 □⑧ 理学療法士 □⑨ 医師 □⑩ 歯科医師
□⑪ 歯科衛生士 □⑫ 相談援助業務従事者(介護等業務従事者含む) □⑬ その他(
4. 事業所の法人種別について該当するところの□を✔でチェックしてください。
□① 社会福祉法人
□③ 社団・財団法人
□④ 営利法人
□⑤ NPO法人
□⑥ 生協

- 5. 貴事業所は居宅介護支援事業所単独施設ですか。
 - □① 単独事業所

□⑦ その他(

□② 複合事業所 ⇒(*付問) 複合施設の場合、下記に○をお願いします。(複数回答可)

1	1. 通所リハ(デイケア)	2. 通所介護(デイサービス)
3	3. 訪問看護ステーション	4. 訪問介護
5	5. 老人保健施設	6. 特別養護老人ホーム
7	7. 介護療養型老人保健施設(新型老健)	8. グループホーム
5	9. 小規模多機能事業所	10.老人短期入所施設
1	11.有料ホーム・高専賃・サ高住	12.在宅介護支援センター
1	13.その他 ()

6. 貴事業所職員の職種別人数と、専任・兼任の別について下表にご記入ください(*注:兼任は貴事業所における業務割合で記入ください)

		福祉系資格を	福祉系資格を	医療系資格を	医療系資格を	事務員	その他の
		もつ介護支援	もつ主任介護	もつ介護支援	もつ主任介護		従業者
		専門員	支援専門員	専門員	支援専門員		
スタッフ数	専任	人	人	人	人	人	人
	兼任	人	人	人	人	人	人
	計	人	人	人	人	人	人

現在、併設施設も含めた貴事業者の職員の常勤・非常勤スタッフの有無について、該当するところの□を✔でチェックしてください。

	常勤スタ	ッフの有無	定期的に従事する非常勤スタッフ			
1. 医師	□① いる	□② いない	□① いる	□② いない		
2. 歯科医師	□① いる	□② いない	□① いる	□② いない		
3. 薬剤師	□① いる	□② いない	□① いる	□② いない		
4. 看護職員	□① いる	□② いない	□① いる	□② いない		
5. 介護職員	□① いる	□② いない	□① いる	□② いない		
6. 技士(OT.PT.ST等)	□① いる	□② いない	□① いる	□② いない		
7. 栄養士	□① いる	□② いない	□① いる	□② いない		
8. ソーシャルワーカー	□① いる	□② いない	□① いる	□② いない		
9. 事務職員・給食係・その他	□① <i>い</i> る	□② いない	□① いる	□② いない		

8. 貴事業所の利用者数についてお答えくださ	۱۷۰ _۰								
(※平成24年10月1日~平成24年10月3	1日の1ヶ月間で、約	給付管理	を行った	実利用者数を記	己載ください)				
•予防利用者実数(人)								
•介護利用者実数(人)								
•利用者総数 (人)								
9.がん末期*の利用者数についてお尋ねしま						者数の該当	するところの[□を✔で	
チェックしてください。(*このアンケ					(義します)				
□① 0人 □② 1~4	人 □③ 5~	9人	□(4) I()人以上					
10. 貴事業所の届出加算項目についてお答	ラノださい								
	~\/\cev.°		届出の有	∕mr.	Elymp worth	^ n	古中北米(1100 4	1
加昇	加算項目			一無	届け出ありの場		実患者数(H23. 4		
1 胜宁東光元加耸(1)(公司	# 却 那 (な) の 方	∕am.			算定(保険請求		∼H24. 30	/기町)	
	1. 特定事業所加算(I)(介護報酬の加算)の有無 2. 特定事業所加算(II)(介護報酬の加算)の有無								
2. 特定事業所加算(II)(介 3. 入院時情報連携加算の		1 無							1
A PRIL APPRIL AND A A PHONE						□ i あり · □ ii なし □ i あり · □ ii なし □ i あり · □ ii なし		<u> </u>	
4. 退院・退所加算(介護報酬の 5. 認知症加算(介護報酬の									
					□ i あり・			人	
					□ i あり・			<u>人</u> 人	
7. 小規模多機能型居宅介	隻事務 別連携加昇	() () () ()						人	
報酬の加算)の有無	- I the L on toke								<u> </u>
8. 複合型サービス事業所追					□ i あり・			人	
9. 緊急時等居宅カンファレ	ンス加 昇 				□ i あり・	□11 なし		人]
11 下句の庁能の卑老について 卑重光記	アナンナスサウの単江	コナ、よゝヨ。レ	이 ナナ :	法火-ナ フレテフ	のロナルイズチ いわ	ナノゼキい			
11. 下記の病態の患者について、貴事業所に		1		T	Т	T		11	
	□① できない			□③ 対応			工通常業務	過去1年	
	/断っている	ないが		しているが	がルーチン化して		3り、さらに	応した実	患者数
		能と思え		かなり困難	いない	向上を目指			
1. 人工呼吸器をつけている患者			2				(5)	(約	人)
2. 末期がん(看取り)患者			2				5	(約	人)
3. 末期がん(疼痛緩和をしている)患者			2		$\Box 4$		(5)	(約	人)

(約

 \Box (5)

 \Box 5

 \Box (5)

 \Box (5)

 \Box 5

 \Box 5

 \Box (5)

人)

人)

人)

人)

人)

人) 人)

人)

人)

人)

人)

人)

人)

人)

人)

人)

《在宅の実施状況》

4. 脳血管疾患患者

6. 膠原病患者

7. 神経難病患者

8. 慢性心不全患者9. 慢性呼吸不全患者

10. 慢性腎不全患者

12. 認知症患者

11. 栄養ケアが必要な患者

13. 糖尿病管理が必要な患者

14. 褥瘡ケアが必要な患者

15. 喀痰吸引が必要な患者

16. 胃瘻の管理が必要な患者

17. 留置カテーテルの管理が必要な患者

19. 中心静脈栄養の管理が必要な患者

18. 人工肛門の管理が必要な患者

5. 筋骨格系疾患患者

7. 居宅介護事業所の開設時期をお答えください。

•(西曆)______年____月

12. 過去1年間に、24時間体質	制の訪問看護・介護が	必要と思われる事例はど	のくらいありましたか。	概数をご記入ください。
·(約	人)			

 \Box (1)

 \Box (1)

 \Box ①

 \Box (1)

 \Box ①

 \Box ①

 \square ①

 \square ①

 \square ①

 \square ①

 \square 2

 $\square 3$

 $\square 3$

 \square

 $\square 3$

 \square

 $\square 3$

 $\square 3$

 $\square 3$

 \square 3

 $\square 3$

 \square 3

 \square

 $\square 3$

 \square

 \square 3

 $\square 4$

 $\Box 4$

 $\square 4$

 $\Box 4$

 $\square 4$

 $\square 4$

 $\square 4$

 $\square 4$

 $\Box 4$

 $\Box 4$

 $\Box 4$

 $\square 4$

 $\square 4$

 $\Box 4$

 $\Box 4$

 $\square 4$

《在宅に関する評価》

13. 在宅医療や訪問看護に対するイメージについて、該当するところの□を✔でチェックしてください。

	1	医療依存度が高い患者の在宅は無理	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
イメ	1. 2.	在宅で緩和ケアや看取りの対応は困難	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③あまり思わない	□④ 思わない
	3.	在宅は患者の医療費負担が高い	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③あまり思わない	□④思わない
ジ	4.	家族の介護負担は大きい	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④思わない
	5.	医師との連携は敷居が高いので最低限で済ませたい	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③あまり思わない	□④思わない
	6.	訪問看護との連携は敷居が高いので最低限で済ませたい	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④思わない
連携	7.	地域医療連携室(連携担当者)のない病院との連携は困難である	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④思わない
携	8.	入院初期に介護支援専門員と医療ソーシャルワーカーの連携は必要	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④思わない
	9.	困難事例において地域包括支援センターの活用や相談をしている	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③あまり思わない	□④思わない
		病院スタッフの介護保険制度認識が乏しいと、退院移行時のトラブルは多く	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③あまり思わない	□④思わない
	10.	からいっているが、最後は一般には、一般には、一般には、一般になっている。				
	11	介護資源や家族の協力があれば在宅療養ができる人を除いても、圧倒的	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
環境	11.	に中間施設は不足している				
境	12.	在宅療養は重度の人より軽度の人の方がサービスが不足している	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
		独居高齢者や老々介護などでは、介護資源が充実すれば在宅医療・介護	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③あまり思わない	□④思わない
		は可能				
	14.	訪問看護導入の必要性を理解しているケアマネジャーは増えている	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
訪	15.	訪問看護導入の必要性を理解している患者・家族は増えている	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
看認	16.	予防的視点での訪問看護導入は増えている	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
知	17.	ケアマネジャーは訪問看護を導入することのメリットを患者・家族に十分説明	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
		できている				
	18.	医療知識(用語を含む)の不足が業務に支障を来たしている	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	19.	医療依存度の高いケースのアセスメントは苦手意識がある	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	20.	ケアプランは必要に応じて職場内の他のスタッフと相談しながら作成してい	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
教育		3				
育	21.	ケアプラン作成時には医師、看護師の意見を十分もらっている	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	22.	医療知識を学ぶ場(機会)は多い	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	23.	教育機会がもっと必要	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	24.	研修会や勉強会にはあまり参加できていない	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	25.	サービス担当者会議の日程調整に多大な時間と手間がかかっている	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	26.	他機関との情報共有に多大な時間と手間がかかっている	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	27.	事業所から遠い地域の医療・介護資源情報の把握は難しい	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
. L=	28.	岡山県プライマリ・ケア学会の地域連携パス「むすびの和」を活用したい(し	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
情報		ている)				
	29.	もも脳ネットの地域連携パスを活用したい(している)	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	30.	貴事業所において人員増が必要	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	31.	貴事業所において、医療依存度が高いケースへの対応能力は向上してい	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	6.6	5 ++===================================				
満足		在宅医療を受ける患者の満足感は高い	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③あまり思わない	□④思わない
		在宅医療を受ける家族の満足感は高い	□①そう思う	□② 少しそう思う	□③あまり思わない	□④思わない
その	34.	地域の在宅医療のニーズが増えている	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
他	35.	今後在宅医療は推進すべき	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
<u> </u>			•			•

14. 退院時の在宅移行がスムーズにいかないのはどんな要因が影響していると思われますか。該当するところの□を✔でチェックしてください。

1.	患者・家族に介護保険の理解が不足している	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
2.	在宅への不安が強い	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
3.	利用できるサービスを知らない	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
4.	在宅移行にあたっての病院からの連絡が遅い	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
5.	担当の介護支援専門員がいない(介護保険未利用者)	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
6.	独居や老々介護	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
7.	受け入れ先がない	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない

	1. 医師(診療所)	□① 0人	\square ②	1人	□③ :	2人	□④ 3~4人	□⑤ 5人以上		
	2. 医師(病院)	□① 0人	\square 2	1人 []3 :	2人	□④ 3~4人	□⑤ 5人以上		
	3. 歯科医師	□① 0人		1人 []3 :	2人	□④ 3~4人	□⑤ 5人以上		
	4. 薬剤師	□① 0人		1人 [3 :	2人	□④ 3~4人	□⑤ 5人以上		
	5. 看護師	□① 0人		1人 []3) :	2人	□④ 3~4人	□⑤ 5人以上		
				1人 []3 :	2人	□④ 3~4人	□⑤ 5人以上		
				1人 [3 :	2人	□④ 3~4人	□⑤ 5人以上		
	8. ケアマネジャー	□① 0人		1人 [3 :	2人	□④ 3~4人	□⑤ 5人以上		
	9. 医療ソーシャルワーカー	□① 0人		1人 [3 :	2人	□④ 3~4人	□⑤ 5人以上		
	10. その他()	□① 0人		1人 [3 :	2人	□④ 3~4人	□⑤ 5人以上		
17. 以下の機関	関と連携をさらに強化するとき、困難を感	じますか。該当する	るところの	の□を ノ でう	チェック	クしてくア	ださい。			
	1. 病院	□① とても感じる	3	□② 感じる		□3 8	あまり感じない	□④ 感じない		
	2. 一般診療所	□① とても感じる	3	□② 感じる		□3 8	あまり感じない	□④ 感じない		
	3. 在宅療養支援診療所	□① とても感じる	3	□② 感じる		□3 8	あまり感じない	□④ 感じない		
	4. 介護老人保健施設	□① とても感じる	3	□② 感じる		□3 8	あまり感じない	□④ 感じない		
	5. 特別養護老人ホーム	□① とても感じる	3	□② 感じる		□3 8	あまり感じない	□④ 感じない		
	6. グループホーム	□① とても感じる	3	□② 感じる		□3 8	あまり感じない	□④ 感じない		
	7. 訪問看護ステーション	□① とても感じる	3	□② 感じる		□3 8	あまり感じない	□④ 感じない		
	8. 地域包括支援センター	□① とても感じる	3	□② 感じる		□3 8	あまり感じない	□④ 感じない		
	9. 居宅介護支援事業所	□① とても感じる	3	□② 感じる		□3 8	あまり感じない	□④ 感じない		
	10. 市町村保健部門	□① とても感じる	3	□② 感じる		□3 8	あまり感じない	□④ 感じない		
	11. 保健所	□① とても感じる	3	□② 感じる		□3 8	あまり感じない	□④ 感じない		
	12. 市町村福祉部門	□① とても感じる	3	□② 感じる		□3 8	あまり感じない	□④ 感じない		
	13. 福祉事務所	□① とても感じる	3	□② 感じる		□3 8	あまり感じない	□④ 感じない		
	14. 歯科診療所	□① とても感じる	3	□② 感じる		□3 8	あまり感じない	□④ 感じない		
	15. その他()	□① とても感じる	3	□② 感じる		□3 8	あまり感じない	□④ 感じない		
《今後の方向	性》		<u> </u>							
18. 介護支援	専門員の負担軽減や資質向上のために	、以下の取り組みに	は有効だ	どと思われま	すか。	。該当す	-るところの□を ノ で	ごチェックしてくだ	さい。	
1. ブロック単	単位(区単位)で多職種との情報交換・顔	合わせの場をもつ)非常に有効	功 []② 有	効 □③ あまりタ	か果的ではない	□④ 効果的では	はない
2. 訪問看護	と合同で事例検討会をする			非常に有効	功 []② 有	効 □③ あまりタ	別果的ではない	□④ 効果的では	はない
3. 多職種で	でのケアプラン検討会の実施)非常に有効	功 []② 有	効 □③ あまりタ	り果的ではない	□④ 効果的では	はない
4. 医師連絡 スをもらう	8の前に医師への確認事項について訪問 。	見看護からアドバイ)非常に有効	功 []② 有	効 □③ あまり交	効果的ではない	□④ 効果的では	はない
	' -ポート体制(研修や相談))非常に有効	žh []② 有		カ果的ではない		
	が、「体制(如じて相談) 『ソフト等を使ったITツールの活用)非常に有効]② 有		か果的ではない	□④ 効果的では	
	ニュー・ディーグランドラー アックロボーニー E宅移行の調整・相談機関を設置し、かか	いつけをがいな)非常に有効]② 有		か果的ではない	□④ 効果的では	
	- 149年の調整・指数1歳例を放置し、277 の相談ができる	-19 フロ <u> 本</u> の		/ クトfi(⊆´fi タ	90 _	1 6 71,	×,	り火は、くけれてい		4/4V.
, , , , ,	STREW CC									
	への医療・介護サービスを充実させるため	かに、以下の取り組	みは有	可効だと思い:	ますカ	1。該当	するところの□を ✓	でチェックしてく	<i>ごさい。</i>	
	・随時対応サービスの拡充			非常に有効]② 有		効果的ではない	□④ 効果的では	
2. 訪問看護	賃 師が医療・介護サービスをランニングさ	せていくための)非常に有効	动]② 有	効 □③ あまりタ	か果的ではない	□④ 効果的では	はない
	ンファレンスで中心的役割を担う									
	ヘルパーを一つの事業所として役割分	旦をしながら一体)非常に有効	动 □]② 有	効 □③ あまりタ	め果的ではない	□④ 効果的では	はない
	-ビスを提供する									
4. 看取りま	でできる高齢者施設)非常に有効	功 🗆]② 有	効 □③ あまり交	が果的ではない	□④ 効果的では	はない
5. 医療処置	畳のある患者でも利用できるショートスティ	<u> </u>)非常に有効	劲 []② 有	効 □③ あまり刻	め果的ではない	□④ 効果的では	はない

□① 気楽に相談できる相談先がある □② いざとなれば相談できる相談先がある □③ 余程でないと相談できない

16. 医療・介護サービス、在宅関連介護保険点数、福祉サービスなどについて、同一法人以外の専門的な相談ができる(意思疎通の図りやすい・信頼できる)連携

□⑤ 相談はしない

先がどのくらいありますか。およそで構いませんので、該当するところの□を✔でチェックしてください。

《連携》

15. ケアマネジメントで悩んだとき、気軽に相談できる相談先がありますか。

□④ 相談先がない

お手数ですが、記入漏れがないか再度ご確認の上、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、12月14日(金)までにお近くのポストに

○ 在宅医療について日ごろ気を付けていることや今後の課題等意見をご記入ください。

投函してください。ご協力ありがとうございました。